

## 新型コロナワクチン接種医療従事者向け研修会質疑応答（令和3年3月11日開催）

	質 問	回 答
1	接種前の聴診は、全例にする必要はあるのか。	接種不相当者である「明らかな発熱を呈している者」や「重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者」を評価したり、要注意者に対するリスク評価において、 <b>必要に応じて</b> 聴診を含めた診察を行うことを想定しています。
2	集団接種会場でプライバシー保護の問題もあるが、アドレナリンは脱衣で打つべきか。	アンプルやプレフィルドのアドレナリンを筋注する場合には、きちんと穿刺できているかを確認するためにも脱衣で打つべきだと考えられます。一方、エピペンについては、着衣での注射が可能です。（エピペンを使用する場合、医療従事者がエピペンの使用方法について、下記サイトや練習用トレーナー等を活用してあらかじめ訓練しておくことが推奨されています。 <a href="https://www.epipen.jp/">https://www.epipen.jp/</a> ）
3	四肢の拘縮が強い寝たきりの方や、BMI 15前後のやせ顕著な高齢者の場合、三角筋へ安全に接種するのは難しいように思われます（体位を保持できない、筋肉が萎縮して薄いなど）。 ①大腿部や臀部への選択は可能でしょうか。 ②それを選択した場合に予想される問題がありましたら、教えていただきたいです。	添付文書にて「通常、三角筋に筋肉内接種すること」とされているため、基本的には三角筋に筋肉内注射してください。 なお、医師の判断により別の部位に筋肉内注射することを妨げるものではありません。その場合は、神経の走行などに十分注意して接種してください。  【接種部位に関する参考文献】 1) 日本プライマリケア連合学会 「新型コロナワクチン筋肉注射の方法とコツ」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tA96CA6fJv8">https://www.youtube.com/watch?v=tA96CA6fJv8</a> ：やせ形（皮下脂肪が薄い方）については針の長さ16mmに調整する方法も提唱されています。 2) 添付文書：「(6. 用法及び用量) 日局生理食塩液1.8mLにて希釈し、1回0.3mLを合計2回、通常、3週間の間隔で筋肉内に接種する。」 「(14.2 薬剤接種時の注意) 通常、三角筋に筋肉内接種すること」
4	マニュアルには、自施設で対応出来る範囲と書かれてますが、やはり少なくとも酸素投与が必要と言う事になるのではないですか。	医療マニュアルのなかで酸素ポンペは必ず用意しなければならないものとはしておらず、もし酸素ポンペがあるのであれば酸素投与、輸液ができるのであれば静脈路確保、をしていただきたい、という意味ととらえていただければと思います。 自施設に酸素ポンペがなければ、今回のワクチン接種のために、酸素ポンペを用意していただくところまでは求めてはおりません。

	質 問	回 答
5	<p>①「1回目接種で重度の過敏症を呈した方」は（2回目）接種は中止、「1回目の接種で軽度・中等度の過敏症を呈した方」は（2回目）接種は要注意者と記載されていますが、即時型アレルギー反応は2回目以降が重篤になる可能性を考えると、1回目接種でたとえ軽度の症状であっても、2回目接種は中止すべきだと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>②アレルギー歴のある薬の名前が分からなかったり、化粧品、シャンプー、歯磨き粉にアレルギー歴があればワクチン接種は中止とした方がよろしいのでしょうか。</p>	<p>今回の予防接種の実施にあたっては、委託元である市町村と、委託先である医療機関との間で、全国知事会と日本医師会を介して、集合契約が結ばれています。</p> <p>集合契約には、禁止事項が盛り込まれており、「丁（委託先である医療機関）は、予防接種を実施するにあたっては、各本ワクチンの添付文書に記載されている接種量、接種回数、接種間隔その他の一切の事項を遵守しなければならない、添付文書の記載に反する内容又は方法により接種又は使用してはならない。」とされています。</p> <p>①接種不適合者（予防接種を受けることが適当でない者）  添付文書には、<b>接種不適合者</b>として、「本剤の成分に対し重度の過敏症の既往歴のある者」と記載されています。また、「<u>本剤の初回接種時にショック、アナフィラキシーが認められた接種者</u>に対しては、本剤2回目の接種を行わないこと。」と記載されています。</p> <p>②接種要注意者（接種の判断を行うに際し、注意を要する者）  添付文書には、<b>接種要注意者</b>として、「<u>本剤の成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある者</u>」と記載されています。このような接種要注意者に対しては、「健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行い、予防接種の必要性、副反応、有用性について十分な説明を行い、同意を確実に得た上で、注意して接種すること。」と記載されています。</p> <p>これらの添付文書の記載を踏まえて、個別の事例ごとに接種適否を医学的にご判断ください。</p>